

2024年3月19日
第6期第2回中野区子ども・子育て会議

子ども・若者の居場所について －現代的な貧困に対応する児童館－

駒澤大学 萩原建次郎

子ども・若者の居場所がより重要になっている背景
—子ども・子育て家庭をとりまく社会環境の変容—

激しい人口流動が生み出す地域・職場からの離脱と孤立

産業社会が進行し、グローバルな経済競争が激化した現代における人間の在り様について、教育哲学者の高橋勝は次のように指摘する。

社会が激しく流動化しはじめると、人々は共同体（※地域・職場・家庭等）における身近な他者から切り離されて、不特定多数の他者と関わらざるをえなくなる。それは、社会変動によって、人々が安定した共同体を失って孤立し、濃密な関わり合いを喪失することを意味している。

※は萩原による加筆

高橋勝編著『子ども・若者の自己形成空間』東信堂,2011年,18頁

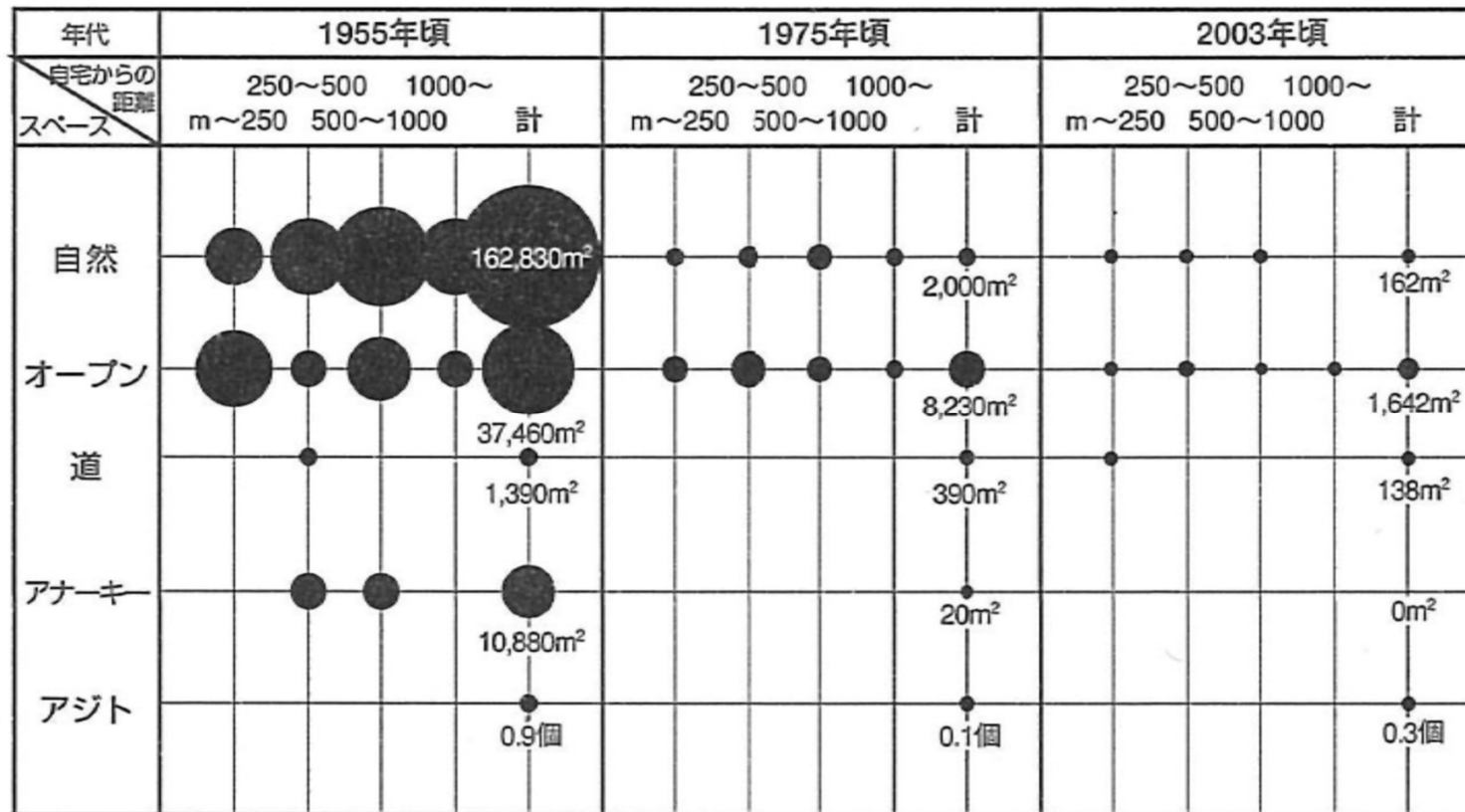
子育て家庭の孤立と脅かされる子どもの安全

「共同体における身近な他者との関係が切り離される」ということは、人間関係において、①時間をかけて信頼関係を築くこと、②互いのすれ違いを修正するゆとり、③それぞれの経験の履歴を共有することもできなくなる、ということの意味する。

地元で生まれ育ち、そこで子育てをするわけではない親が増えることは、親自身にとっても、身近に事情を知る他者がほとんどいないことを意味する。それは精神的にも孤立した子育てになる。

このような親同士の関係の希薄化や世代間の分離・断絶は、子どもたちにとっても地域が顔の見える信頼関係に根差す安心安全の場ではなくなることを意味する。それゆえ、子ども・子育て世代と他世代間でも軋轢が生じやすくなると同時に、子どもたちの地域の居場所は極めて限定されていく結果を招かざるを得なくなる。

子どもの外遊び環境・体験世界の著しい衰弱



図表1

仙田満『こどものあそび環境』鹿島出版,2009年

現代的貧困の特徴－関係性と体験の貧困

現代的貧困が戦後直後の貧困と大きく異なるのは、家族、親戚縁者、学校、会社、地域といった身近な共同体が脆弱となり、いざというときに頼れる身近な他者がおらず、友だち関係や遊び仲間さえも作れない、遊びを通した多様な体験も享受できないといった「関係性の貧困」と「体験の貧困」が加算されている点である。

現代的貧困に対応する児童館の今日的意義

子育て、児童問題へ発展させてしまわない児童文化の発信と充実

現代的貧困と児童館の存在意義

前回の阿部先生のご講演内容にもあった、子ども若者の自然体験や文化芸術体験等の「体験の貧困」の問題は、令和6年度予算で検討中の主な事業一覧(前回資料4)の22番～28番(とりわけ22番と24番)に深くかかわる問題でもある。

児童館は、子育ての孤立化や子どもの遊び不足と社会性発達の欠如などの児童問題を深刻にさせてしまわない、多様な児童文化の発信拠点として重要な役割を担っている。

とくに貧困の有無にかかわらず、誰もが平等に文化・芸術活動に参加できる場にもなっており、現代的貧困の視点から見ると、改めて児童館の重要性が浮き彫りになる。

前回資料4より抜粋

22	常設プレーパーク設置に向けた試行実施【新規】	江古田の森公園内の常設プレーパーク設置に向けて、子どもや保護者、地域の意見・ニーズを捉え、プレーパークの運営や工事内容に反映するため、試行的に事業を実施する。
23	地域子ども施設改修工事【拡充】	区立保育園、児童館、学童クラブ、キッズ・プラザ、ふれあいの家利用者の安全・安心と快適な環境の確保のため、施設改修工事を実施する。
24	児童館の機能拡充【拡充】	児童館運営・整備推進計画(案)に基づき、児童館・ふれあいの家を基幹型・乳幼児機能強化型・中高生機能強化型の3類型への移行に向け、類型毎の機能強化を推進するための取組を行う。
25	放課後等の子どもの居場所の拡充【拡充】	キッズ・プラザの新規開設を進めるとともに、学童クラブの定員拡充等、放課後の居場所の充実と周知広報の強化を進める。
28	区立図書館児童コーナー等環境改善事業【新規】	子どもの読書活動を推進するために、江古田図書館の児童コーナー等を整備する。

児童館が身近な地域にあることの意義

- 地域の子育て支援拠点、地域住民・親・子の交流の場
- 地域の子育て力を上げる場、地域コミュニティの核
- 身近な場所に区営の施設があり、信頼できる職員が長いスパン
(0～18歳) で子どもの成長過程に関わってくれるという安心感
→流動化する社会での安定した居場所と関係性の貧困への対応
- 経済貧困・生活困窮家庭であっても文化芸術活動に参加可能な場
→体験の貧困への対応

児童館が果たしている役割と機能―品川区を事例に

